

日本国際文化学会

<http://www.jsics.org>

ニューズレター

2011年9月15日 発行

日本国際文化学会事務局

〒253-8550

神奈川県茅ヶ崎市行谷1100

文教大学国際学部

山脇千賀子研究室

【報告】 沖縄大会：日本国際文化学会創立10周年記念特別全国大会

特別大会実行委員長 仲地 清



特別シンポジウム1「東アジア共同体と国際文化学」

1 若林会長の熱意

4月12日、若林一平会長が名桜大を訪れて日本国際文化学会創立10周年記念特別シンポジウム「戦略としての文化と国際文化学：3・11後の展望」の特別実行委員長を引き受けて欲しい、との依頼をされた。「関東地方は東日本大震災の余震が続き、国際シンポジウムが開ける状況にない。琉球王国時代から続く沖縄の国際文化から東日本復興策のヒントを得たい」が、私を

説得した根拠だった。すばらしい企画と国外からの著名な招待パネリストを拜見して、果たして2ヶ月の準備で、これらのゲストが喜んでいただける学会の準備ができるか不安だった。名桜大学のある名護市は人口8万人の地方都市で、学会の価値がまだ十分に市民に浸透していないので、参加者を動員できるか、やはり不安だった。しかし、平成19年の第6回全国大会は台風で十分な運営ができなかった苦い思いがあったこと、

また東日本大震災復興に対して日本国際文化学会は何かできないかと自問する若林会長の熱意に負けて、協力を決意した。

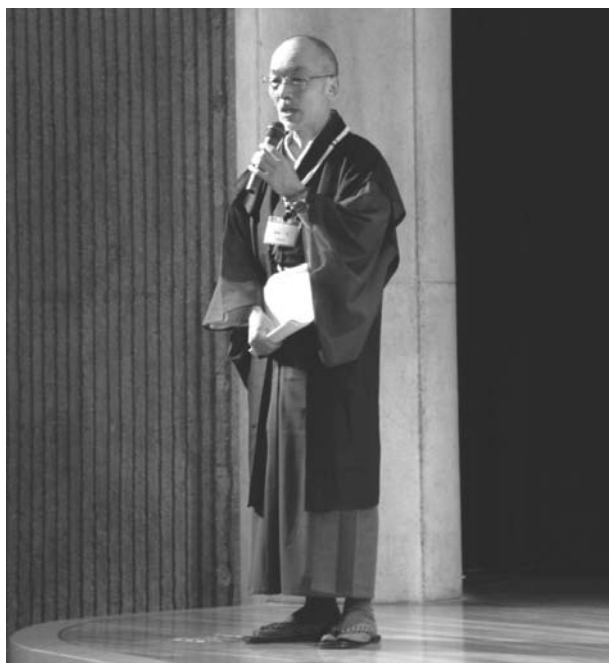
2 瀬名波学長の基調講演で始まった充実の3日間

日程は7月1日（金）から3日（日）で、1日目の基調講演は会場となった名桜大学の瀬名波榮喜学長が「大震災復興と沖縄の国際文化」を話された。内容は「琉球王国時代の万国津梁の精神に基づく異文化接触、ハワイ沖縄県人会による沖縄の戦後復興への協力、ユイマールの心」を内容とする沖縄における国際文化の意義を強調し、沖縄の戦後復興が国内外の多くの人々、団体の力で達成されたと結んだ。予定時間を大幅に越えるほど瀬名波学長の講演は熱がこもった。1日目は企画1「東アジア共同体と国際文化」、そして2日目は企画2「グローバル化するポピュラーカルチャーと国際文化」、3日目は企画3「人の移動と国際文化」のシンポジウムが生まれ、会場は満席に近かった。また、3日間で自由論題報告が8セッションで23件あった。共通論題プログラム1は大学近くの中山公民館を使って「ワークショップー地域に根ざした食文化の創造」と題し、横川潤准教授（文教大学）と奥古田悦子さん（沖縄県北部やんばる女性農業者友の会会長）が協力して論文発表と料理講習会を開いた。加えて共通問題プログラム2で6つの論文発表があった。フォーラム「国際文化学教育テキスト：現状と課題」では、大学で使われている教科書3つが紹介された。

1日目のプログラムは金曜日の午後6時から9時までの遅い日程であったにもかかわらず、収容定員450人の多目的ホールはほぼ満席となった。JTBの田川博己社長は「旅の力による東アジア交流文化圏」を提案された。参加者の大半は名桜大の学生で、学生の意欲に感服した。名桜大は2日目にも「名護市が発信した国際文化」の特別セッションを立て、「程順則の六論、沖縄空手、芭蕉布、小さな世界都市」の例を報告した。

3 情報交換会

情報交換会の幕開けの舞は琉球王朝時代から続く、祝儀舞踊「かぎやで風節」を、玉城琉乙姫要の会（富里恵子会主）の藤村修司、藤村未央さん兄妹にお願いした。沖縄では祝宴の座開きにはこの踊りが披露される。この踊りの歌詞の意味は「今日の嬉しさは、何にたとえることができようか。あたかも蕾が露を受けてパツ咲いたような心持ちである」である。その他、藤村修司さんが琉球舞踊「上り口説」、藤村未央さん、大城絵美さんが「貫花」、本大学教授で空手10段の高



シンポジウム1 若林会長挨拶

宮城繁さんの門下生（沖空会昭平流北谷道場）が沖縄空手を披露され、また仲井間憲児さん（本大学講師）が琉球古武道「棒術」の演技、琉球音楽教師の寄合英名さんに「八重山音楽」の演奏をいただいた。

公立名桜大学を運営する沖縄県北部広域市町村圏事務組合理事長で名護市市長の稲嶺進氏には、乾杯の音頭と来賓挨拶をしていただいた。若い研究者の沖縄への感想も述べられるなど、意見、情報の交換会は盛り上がった。

4 結び

短い準備期間だったが、若林会長の期待する「10周年記念特別シンポジウム」はほぼ満足するような運営ができたと思う。企画シンポは満席であった。自由論題、共通論題セッションは、同時時間帯にセッションが横並びしていたこともあって、それぞれのセッションの入りには差があったが、いずれも熱のこもった議論が行われた。

外国からのゲストの日本語力はすばらしかった。特にアメリカで、日本の漫画を広め、研究するフレデリック・L・シヨットさんの日本のポップカルチャーに対する知識と研究は広く深かった。流暢な日本語での発表は会場を魅了した。ポップカルチャーは学生を魅了した。ソウル国立大学ジャン・インソン教授も日本語が堪能で、東アジア共同体へ向けた課題を教示した。

今回の運営で、若林会長が勤める文教大学の山脇千賀子さんに協力して準備業務をしたのは、早稲田大学から本大学に4月に赴任した菅野敦志さんであった。

菅野さんは平成19年の台風学会で、嵐の中を本大学までこられ、発表をなされた。不思議な縁である。文教大学の奥田孝晴、山脇千賀子さんが、プログラム、要旨集をすでに印刷して下さっていたので、名桜大側へスムーズに引継ぎができた。また、岡真理子さん（青山学院大学）には、ゲストの宿泊の手配をしていただいた。

若林会長は「東日本大震災からの復興と国際文化学の役割」の答えを見つけるべく、会場を沖縄に移した。答えは見つかっただろうか。10周年特別シンポ、全国大会の開催を断念せず、震源地からもっとも遠い沖縄で開いた。会員は青い海、青い空の自然に接した。会員は3・11後、久しぶりの安堵感に浸った。それだけでも沖縄大会を運営できたことを嬉しく思った。



特別シンポジウム2で報告するフレデリック・L・ショット氏



平野健一郎賞創設の意義—来し方10年と未来を想う—

JSICS会長 若林 一平

2011年7月2日の日本国際文化学会（JSICS）第10回総会において「平野健一郎賞」の創設が決まり、続いて授賞式が行われた。まことに創立10周年に相応しい慶事というべきである。本賞創設の趣旨として次の3点を指摘しておきたい。

(1) 平野先生は国際文化学という未踏の学的領域を開拓しさらに日本の国際文化学をひろく振興するために当学会を創立し、いま当学会は創立10周年を迎えた。加えて東アジア全域にわたる後進の育成につとめてきた平野先生の主著『国際文化学』はこのほど韓国語・中国語版が出版されて東アジアにおけるいわば平野国際文化学が一時代を画するに至った。

このときにあたり当学会唯一の賞に平野健一郎の名を冠することにより当学会の来歴を明確にして、

国際文化学の発展に資する研究を顕彰する意味を内外に明らかにする。

(2) 本賞はこれまでの「研究奨励賞」の趣旨と規定を継承する。元々研究奨励賞は平野先生の尽力により発足した経緯がある。研究奨励賞基金は新たに発足した「学会創立10周年記念基金」に合流して発展させる。

(3) 本賞創設を機として当学会は若手育成・研究奨励に大きく舵をきりたい。これこそ平野先生の志を次の10年へと継承する大道である。

以上の趣旨はいずれも当学会の活動方針の基本に位置づけるべきと判断します。よってこのたびの慶事は必ずや未来への礎となるものと期待します。

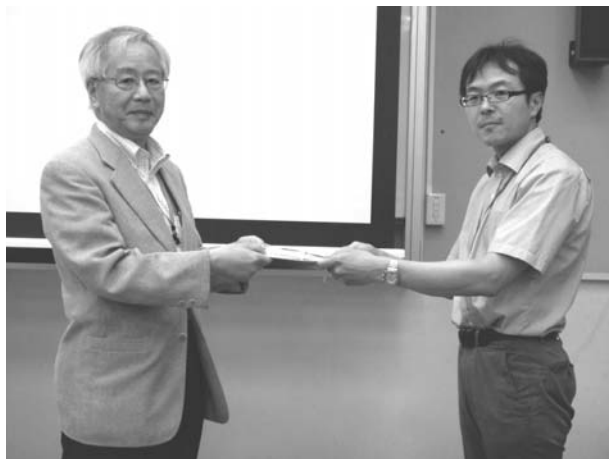
第1回平野健一郎賞授賞式の報告

第1回平野健一郎賞が土屋明広氏の論文「断絶としての「在日／日本人」－その克服に向けて」（『インターカルチュラル』9号掲載）に授与された。

日本国際文化学会研究奨励賞選考委員会における授賞理由は以下のとおりである。

「本名宣言」をテーマに、日本社会における「在日コリアン」の被抑圧的状况を論じた本論考は、一見、差別を解消しようとする「良心的な」言説が実は差別構造を補強してしまうという逆説に対し、根底的・批判的な問い直しを試みている点で、極めて有意義な内容である。論の運びも、先行研究を踏まえながら細やかな視点で捉えられている点で評価される。国際文化学の観点に照らしても、1) マクロの視点に偏重されない国際文化学のもう一つの重要な視点、ミクロの視点に立脚し、＜内なる国際化＞の問題を具体的に明示、分析できている点、2) 文化間の問題は静的な視点では

なく動的なダイナミズムのなかで捉えられるという、本学会において共有されつつある理解を実例として示している点など、評価されるところが多く、本学会の発展に大いに寄与する論考であると判断される。



初代会長・平野健一郎先生(左)から賞を受ける土屋明広氏(右)

感謝そして沖縄・名護の真実

2011年8月1日
JSICS 会長 若林 一平

特別シンポジウムに登壇されたみなさまへ：

JSICS 創立10周年記念特別シンポジウム「戦略としての文化と国際文化学：3/11後の展望」に出演を賜り厚く御礼申し上げます。

おかげさまで東アジア共同体・ポピュラーカルチャーそして人びとの移動について討議が行われて3/11後の展望について重要な提案がなされました。

今年度内に日本語版・国際版と2冊の最終報告書が刊行されます。なお追加の原稿依頼ならびに原稿校正のお願いがあります。ご協力賜れば誠に幸甚です。

このたびの事業が計画通りに進捗している現在、ここでなおひとつの事実を想起しておきたいのです。それは2009年から2010年初頭にかけて日本の鳩山総理が沖縄の普天間基地を名護の辺野古地区に再配置するという日米合意にかわる代替案の検討を県外への移転を前提に進めたという事実です。私の意見では鳩山総理は正しいことを言いました。沖縄県民

の80%以上の支持を得ていました。しかし、彼は実行できませんでした。それは何故でしょうか？

正しい道の選択のためには社会的な集合知（a socially organized intelligence）を私たちは必要としています。インターネット時代は断片化された知識としての情報にあふれています。それがどんなに巨大なものであれ情報（an information）は知（an intelligence）ではありません。前述の悲劇の根本原因はまさしく知の不在にあると考えます。さらに不幸は重なりました。2011年3月11日、福島第一原子力発電所の事故で知（an intelligence）は再び破綻しました。フクシマの問題はエネルギーの危機というよりは知そのものの危機ではないでしょうか。

3/11後の展望のためには社会的集合知が必要とされています。まったく同じ文脈で名護は今なお私たちの知をテストしていると私は考えます。

まずは重ねて御礼まで。

敬 白

注：会員のみなさまにご一読いただきたく登壇されたみなさまへの英文レターの日本語訳を一部加筆し掲載しました。

日本国際文化学会 2011 年度秋季大会 プログラム

日本国際文化学会 2007 年度臨時秋季大会を以下の要領で開催いたします。

大会実行委員長 奥田 孝晴 (文教大学)

- 1 主 催 : 日本国際文化学会 共催: 文教大学国際学部
- 2 日 時 : 2011 年 10 月 2 日 (日) 10 時 ~ 15 時 30 分
- 3 会 場 : 文教大学湘南校舎 (神奈川県茅ヶ崎市行谷 1100) 電話 0467-53-2111
- 4 交通アクセス: ウェブで「文教大学湘南校舎交通アクセス」をご利用ください
- 5 航空券・宿泊: ウェブで「楽天トラベル ANA・JAL バック」をご利用ください
- 6 参加費 : 500 円 茅ヶ崎文教濱田屋特製弁当: 1,000 円 (飲み物代含む)
- 7 申し込み先 : jsics2011@gmail.com 宛に「タイトル: 秋期大会参加」として
「本文: お名前・所属・弁当の希望の有無」を書いて 2011 年 9 月 20 日までにご連絡ください。

8《日 程》

10 時 ~ 11 時 30 分 自由論題発表

- セッション A 司会: 鳥飼 玖美子 (立教大学)
 - 白川 俊介 日本学術振興会特別研究員 PD・青山学院大学
人権の普遍性と文化依存性—その世界秩序構想への含意—
 - 越智 淳子 早稲田大学アジア研究機構: アジア・北米研究所、日韓グローバル研究所客員研究員
ハンチントン著「文明の衝突」へのピーター J. カッエンシュタイン編による反論の書 Civilizations in World Politics (2010 Routledge) の分析及び同著における David Leheny による「日本」論評と他の文明 (中国、インド、イスラム) 論評との比較分析
 - 吉田 和久 帝京科学大学専任講師
文化多元論と認知科学の接点—ヘイドン・ホワイトの《フィギュラール・リアリズム》をめぐって
- セッション B 司会: 都丸 潤子 (早稲田大学)
 - 李 知蓮 (イ・ジヨン) 法政大学大学院 国際日本学インスティテュート 社会学専攻 博士課程
「義理」の今日的意味—日韓の他者認識と共同体意識を支える心情の比較
 - 守屋 貴嗣 法政大学国際文化研究科兼任講師
満州イメージとその変容
 - 梅山 秀幸 桃山学院大学国際教養学部教授
道成寺の髪長姫と「トリスタンとイゾー」
- セッション C 司会: 岡 真理子 (青山学院大学)
 - 川村 明海 龍谷大学大学院国際文化学研究科博士後期課程研究生
中世ロシア・北東ルーシにおける都市計画
 - 鄭 榮蘭 (チョン ヨンラン) 早稲田大学大学院アジア太平洋研究科博士後期課程
ジャポニズムに見る国際的文化交流
 - Frank Riesner 千葉大学非常勤講師
東ドイツと西ドイツの交流

11 時 45 分 ~ 13 時 15 分 特別企画ワークショップ&ランチ

- 地域から始まる食文化の創造 名護やんばる弁当から茅ヶ崎文教弁当へ
同時開催: ソーラークッキングイン茅ヶ崎
 - 主 催 日本国際文化学会
 - 共 催 文教大学国際学部・名桜大学総合研究所
 - 協 力 茅ヶ崎伊右衛門農園・濱田屋・茅ヶ崎市
 - 司会進行 横川 潤 (文教大学)
- 発 表
道畑 美希 (東洋大学)・奥田 孝晴 (文教大学)・横川ゼミ (文教大学)
- 発 表
小川 寿美子 (名桜大学総合研究所長・人間健康学部教授)
- ソーラークッキング指導
Dr. Eugene Boostrom (名桜大学客員教授)
- コメント
伊右衛門農園御主人
濱田屋御主人
茅ヶ崎市長

13時30分～15時30分 共通論題発表

●草原の国際文化－グローバル化の源流を求めて

司 会：若林 一平（文教大学）

□発表者と主題：

- 1 宮脇 淳子 国士舘大学講師
「世界を作った草原文化－モンゴル史の秘密」
- 2 バー・ボルドー（富川力道） 東京外国語大学非常勤講師
「ブフにみる国際文化」
- 3 井出 晃憲 文教大学国際学部非常勤講師
「シカチアリアン岩絵の国際観光資源化」
- 4 呉人徳司（クレビト トクス） 東京外国語大学AA研准教授
「もう一つの遊牧文化－トナカイ民族文化の変容－」

日本国際文化学会（JSICS）会員のみなさまへ 創立10周年記念基金への寄付のお願い

このたびの第10回総会で設置が決まった「日本国際文化学会創立10周年記念基金」は平野健一郎先生の特別寄付50万円を端緒とするものです。その趣旨は本学会創立10周年記念シンポジウムにともなう出費への応援でした。まことにありがたいことです。

「創立10周年基金」は2008年に発足した「研究奨励賞基金」を吸収します。当会は平野先生からの特別寄付を「創立10周年基金」に組み入れさせていただき、その上であらためて本基金から「創立10周年記念シンポジウム」への補助の形で出費することとしました。

今回設置された「創立10周年基金」への会員のみなさまからの寄付金の受け入れにより平野先生の志を共有して本基金をまさしく未来への礎とします。

寄付の公募要領です。

期 間	2011年8月～2012年3月
目 標 額	200,000円
お一人あたり寄付金	100円以上
寄付申し込み	jsics2011@gmail.com タイトル：10周年寄付 本文：お名前と寄付金額
送金方法	事務局への手渡し、あるいは基金口座への入金
基金口座	スルガ銀行 茅ヶ崎支店 普通 2943508 名義人 日本国際文化学会 ニホンコクサイブンカガクカイ
寄付金控除	学会名での領収書を発行します。 確定申告の際に各税務署にて対応してください。
顕彰方法	寄付結果をニュースレターで公示します。 匿名希望の方はご希望に沿います。

今回基金を契機として寄付の文化を育み文字通り結社としての学会を育てていきたいとおもいます。なにとぞよろしくお願ひ申し上げます。

2011年8月吉日
JSICS会長 若林 一平

◇◇◇編集後記◇◇◇

東日本大震災で被災された会員の皆さまに、心からお見舞いを申し上げます。「3・11」後のいま、国際文化学会にできることを実行したいという若林会長のイニシアティブの下、名桜大学と文教大学の皆さま、そして企画担当理事諸兄姉の多大なるご協力を得て、今年

度は2度の特別な大会を開催できる運びとなりました。その中間報告ともいえる本ニュースレター編集に、ご協力下さった方々へ深く感謝申し上げます。沖縄の澄んだ空と海を思い起こしつつ、湘南大会への多くの参加をお待ちし、会員の皆さまのご健康をお祈りいたします。(Y.K.)